

脳梗塞について No7-4



脳梗塞の治療について

前号からの続き

② 抗凝固薬による治療

脳梗塞の範囲が狭く麻痺の程度が比較的軽いなどの場合、嚥下能力に問題が無ければ抗凝固薬の内服を開始する。

(3) リバーロキサバン

●薬剤名

イグザレト



●剤形

10・15mg 錠、10・15mgOD 錠、10・15mg 細粒分包
51.7・103.4mg ドライシロップ小児用

●服用方法

1日1回

(静脈血栓塞栓症の場合は初期3週間1日2回)

●作用

血液凝固第Xa因子を阻害することで、トロンビン産生及び血栓形成を抑制する。

●モニタリング

腎機能・肝機能の確認。(腎不全・凝固障害を伴う肝疾患・中等度以上の肝障害の場合は投与不可) 出血徴候の確認。

●生活上の注意点

- ① 出血しやすくなる為、鼻出血、歯肉出血、皮下出血、血尿、血便等の異常出血があった場合には、直ちに担当医に連絡をする事。
- ② 手術や抜歯等の歯科治療をする時には、事前に担当の医師に服用中であると伝える事。
(医師の判断で臨床上に可能であれば、本剤投与後24時間以上経過した後に行う事が望ましい)
- ③ 多くの薬剤と相互作用を起こす事が知られている為、他院や他科に受診の際は、医師、歯科医師、薬剤師等に服用中である事を知らせる事。
- ④ 咳嗽、血痰、呼吸困難、発熱等があらわれた場合には、速やかに主治医に連絡する事。

話題の新薬 フィアスプ注

超速効型インスリンアナログ製剤

ノボノルディスクファーマは超速効型インスリンアナログ製剤「フィアスプ注フレックスタッチ・ペンフィル・100 単位/ml」を発売した。添加剤としてニコチン酸アミドを加えることにより、投与後初期のインスリンアスパルトの吸収を促進し、ノボラピッドと比較して血糖降下作用がより速く発現する。この薬は、持続型インスリン製剤と併用して使用する。通常、成人は初期に1回2~20単位を毎食事開始時(食事開始前の2分以内)に皮下注射する。必要な場合は食事開始後(食事開始から20分以内)に皮下注射することもある。

薬価 ペンフィル 300 単位：1 2 5 4 円

フレックスタッチ 300 単位：1 8 9 3 円

副作用情報 ジョイクル関節注

小野薬品から販売されている関節機能改善薬のジョイクル関節注による「ショック、アナフィラキシー」について、安全性速報(ブルーレター)が発出され、警告に「本剤投与により重篤なショック、アナフィラキシーが発現することがあるので、本剤は、緊急時に十分な対応のできる準備をした上で投与し、投与後も十分な観察を行うこと。」が追加された。

筋トレに2つの栄養素追加で効果アップ

高齢者のサルコペニアの予防に筋力トレーニングが推奨されているが、必須アミノ酸と茶カテキンの摂取を追加すると、より大きなメリットを得られる可能性を示唆するデータが報告された。骨格筋量の増大に加えてバランス力も向上できる可能性が示唆されたという。徳島大学先端酵素学研究所の森博康氏らの研究によるもの。加齢や疾患などで筋肉量減少や筋力低下が生じる「サルコペニア」は、要介護状態につながりやすく、効果的な予防・改善策の模索が続けられている。



